



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

# 信州ESD通信

No. **10**  
2018.1.10

信州ESD  
コンソーシアム  
事務局

目次：成果発表交流会/ユネスコスクール全国大会/ESD研修会/ESD小事典

## 2月3日に信州ESDコンソーシアム成果発表&交流会が開催されます

ユネスコスクールやNPO、企業の1年間の活動の成果の発表や紹介と交流会が開催されます。ぜひ広報いただき多数のご参加をよろしくお願いいたします。

平成30年2月3日(土) 10時00分~15時30分 信州大学教育学部 図書館2階大講義室

1. 成果発表(午前) 山ノ内町立西小学校、高山村立高山中学校、山ノ内町立山ノ内中学校、信州大学附属松本中学校、長野県長野西高等学校: 講評

2. 交流会・休憩 12:00~13:00 ポスター展示やパンフの紹介があります。

- ・ポスター展示: 長野県環境保全協会、NPO 法人みどりの市民、長野県ユネスコ連絡協議会、附属6校園、長野ユネスコ協会青年部つながる、国際ユース環境会議ほか
- ・パンフレットコーナー: 信州ESDコンソーシアム、長野県環境保全協会、北陸コンソーシアム、ESD活動支援センター、日本ユネスコ協会連盟、ユネスコ・アジア文化センター、EPO中部ほか

3. 成果発表(午後) 高山村立高山小学校、山ノ内町立東小学校、山ノ内町立南小学校、長野県中野西高等学校、文化学園長野中学・高等学校: 講評



## 12月2日ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会に参加しました

大牟田文化会館(福岡県大牟田市)で開催された「第9回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会」に参加しました。今大会には900人以上(なんと昨年の1.5倍!)の参加があり、大盛況でした。大牟田市は人口11万人の地方都市で、先に紹介した豊橋市と同様、自治体を挙げてESDを推進しています。大牟田市では持続可能な地域づくりへの期待から、市長が本部長、各部署の部長が推進員となってESDを推進していますが、決して行政主導だけで進んでいる訳ではありません。「学びのストーリー」を柱とするカリキュラムデザインとして組織化・体系化された大牟田市のESDは、教育実践を通じて練られた成果であり、教育現場の想いが十二分に反映されています(このあたりは、8月のコンソーシアム総会の際の、大牟田市教育委員会の安田教育長の講演を聴講された方はご存じですね)。今大会においてESD全国大会で初めて、公開授業が企画されたのも、大牟田型ESDへの自信の表れでしょう。



信州ESDコンソーシアムは活動内容を紹介するブース展示を行うとともに、コンソーシアムに参加しているユネスコスクールの先生12名を派遣し、情報収集と交流を行いました。このほか、志賀高原ユネスコエコパークなどが参加する日本ユネスコエコパークネットワークも初めてブース展示を行い、志賀高原でのESDの取り組みなどを発信しました。

(水谷瑞希)

## 12月27日山ノ内西小学校でESDカリキュラムデザイン研修会を行いました

西小学校の教員13名のほか、山ノ内町ユネスコエコパーク推進室などから3名が参加し、水谷が講師を務めました。この研修会は1月に計画しているESDカレンダーのワークショップに先立って、地域の教育資源を



洗い出し、共有することを目的として開催したものです。あらかじめ職員室に掲示していた校区の地図に付箋で貼ってもらった、自然や歴史、文化などに関する地域資源を整理し、校区内の教育資源を確認しました。そして、これらの教育資源を踏まえてESDカレンダーの見直しに着手しました。（水谷瑞希）

## 1月9日山ノ内町でESD研修会を開催しました

山ノ内中学校と西小学校で、それぞれ「ユネスコエコパーク・ESD・総合的な学習の時間研修会」を開催しました。山ノ内中学校では中学校のほか、東小、南小の先生方、町職員も加わり、計35名の参加がありました。また西小学校では西小の先生と町職員の、計15名が参加しました。講師は今回も、目白大学の石田好広先生です。

中学校の研修会では、ESDに関する講演に続き、ESDカレンダー作成のワークショップを行いました。あらかじめ準備していただいた学年ごとの年間カリキュラムに、SDGsの各ゴールをシールでタグ付けし、教科の単元ごとにESDの視点を意識した上で、総合の時間を中心に展開しているESD学習との連携について話し合いました。とくに教科ごとに担当が変わる中学校では、このように教員が一堂に会してカリキュラムを俯瞰するワークショップは、情報共有と意見交換の貴重な機会となったようです。

山ノ内西小学校の研修会では、12月末から検討を始めたESDカレンダーについて、石田先生から講評と助言をいただき、さらにブラッシュアップするワークに取り組みました。教科教育との連携について、社会や理科以外の教科とのつながりの発見に苦労する場面もありましたが、石田先生からは、国語、音楽、道徳はESDと連携しやすい内容が含まれているので、教科書の内容をよく検討すると良いとのアドバイスをいただきました。

今回の研修会で、山ノ内町のすべての小中学校の教員を対象に、ESD研修会を実施したことになります。来年度からのさらなるESDの発展に、期待です。（水谷瑞希）



## ESD小辞典 信州大学環境報告書

信州大学では毎年、組織のエネルギー使用状況や環境対策等についての現状を調査し「環境報告書」を作成して報告しています。今年度は信州ESDコンソーシアムが特集として6pの記事となっています。信州大学のHPから取り寄せることができますのでぜひご覧ください。以下は本報告書巻頭の学長メッセージです。

信州大学では、3つの「G」(Green, Global, Gentle) と3つの「L」(Local, Literacy, Linkage) をキーワードとして設け、大学運営の基本方針を定めております。Greenを最初のキーワードとしている理由は、信州大学がこれまで教育・研究・社会貢献など、あらゆる活動を通して、地球環境保全に取り組んできており、最も重視しているキーワードだからです。中略 本報告書では、教育学部が核となって取り組んでいる信州ESDコンソーシアムが特集されております。ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で、日本語訳は「持続可能な開発のための教育」です。日本ユネスコ国内委員会のウェブページには、ESDとは、環境、貧困、人権、平和、開発といった現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動、つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育と記されています。信州ESDコンソーシアムの活動が次代の担い手を育成する核となることを期待しております。以下略



信州ESD通信  
No.10 2018.1.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一  
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部  
事務局：白岩／大山 TEL026-238-4034 kyoesh@shinshu-u.ac.jp